

5つのがんの発症リスク予測と、
がんに関する各種情報を提供する

がんデータマネージドサービス

日本では、平均寿命が延びる一方で国民の約半数ががんにかかると推定され、3人に1人はがんで亡くなっています。厚生労働省は、がん検診の受診率50%以上を目標に掲げて、各自治体との連携などにより科学的根拠に基づくがん検診の受診を推進していますが、目標には届いていない状況です*1。

こうした背景のもと、日立は手軽にがんの発症リスクを予測できる「がんデータマネージドサービス」を開発しました。これはアマゾンウェブサービス(AWS)を活用したサービスで、利用者がスマートフォンから健康診断の情報と喫煙・飲酒などの生活習慣を入力すると、5年以内のがん発症リスクとがんに関連する各種情報が表示されます。

この予測技術は、国内有数のがん専門病院である公益財団法人がん研究会 有明病院が蓄積してきたがんの検診・診療に関する知見や匿名化されたデータと、日立のAI技術とを組み合わせ、がん発症リスクに関する研究を行い、本研究のノウハウを活用して開発した技術です。予測対象となるがんは、厚生労働省が指針で検診を勧める肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、子宮頸がんの5つのがんで、これらのがんの発症リスクを5段階で予測できます。利用者のがん発症リスクを可視化し、がん予防や早期発見に向けた積極的な行動を促進・サポートすることで、健康寿命の延伸とQOL(Quality of Life)向上に貢献します。

*1 厚生労働省健康局がん・疾病対策課「がん検診受診率向上に向けたこれまでの取組」第28回 がん検診のあり方に関する検討会(令和元年5月31日)

利用者の健康診断の情報と
喫煙・飲酒などの生活習慣を入力



5年以内のがん発症リスクの
予測結果とがんに関連する各種情報を出力



▶ サービス提供の流れ

このサービスでは、体験利用を想定しています。まずは体験版でどのようなフィードバックを受けられるかを確認。ご納得のうえで継続利用いただくイメージです。



▶ 利用パターン

日立では、お客さまが提供したいサービスに合わせて迅速に導入いただけるよう、3つの利用パターンを用意しています。

パターンA

日立提供サービスの標準利用 (標準サービス)

- 日立が提供する標準サービスを利用いただくパターンです。
- 日立の提供するWebアプリにログインし、リスク解析や各種情報の閲覧が可能です。
- ご利用者の規模に応じて月額の利用料をお支払いいただけます。

パターンB

日立提供サービスのカスタマイズ利用

- 日立が提供する標準サービスを有償にてカスタマイズし、利用いただくパターンです。
- 画面のデザイン変更など、標準サービスを有償にてカスタマイズします。
- ご利用者の規模に応じて月額の利用料をお支払いいただけます。

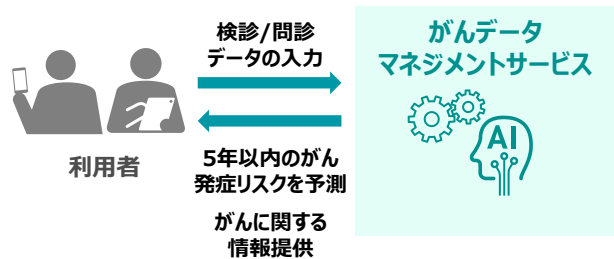
パターンC

貴社システムとのAPI連携利用

- 日立が提供する標準APIを利用いただくパターンです。
- 設定されたInput/Outputの授受をAPI連携にてご利用いただけます。貴社システムとの連携に際し、有償サポート料金(開発支援、接続テストなど)が発生します。
- APIのアクセス数に応じて月額の利用料をお支払いいただけます。

▶ システム構成

本サービスはAWSを活用して構築しています。



導入事例

実証実験を経て S O M P O ひまわり生命保険株式会社さまの「リンクロス 健康トライ」で採用

同社と日立は、2022年4月1日から4月21日までの3週間、同社のお客さま約300人を対象に「がんデータマネージドサービス」の実証実験を実施しました。参加者の84%が同サービスの継続的な利用の意向を示したこともあり、2022年11月から、「がんリスクシミュレーター」サービスを、生活習慣の改善をサポートするアプリ「リンクロス 健康トライ」の新機能として提供を開始しました。



がんリスクシミュレーター画面イメージ
(本画面イメージは、2023年2月時点のものです。)

- Amazon Web Services、AWS、Powered by AWS ロゴ、その他 AWS商標は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。
- 「Linkx(リンクロス)」は S O M P O ひまわり生命保険株式会社の登録商標です。

